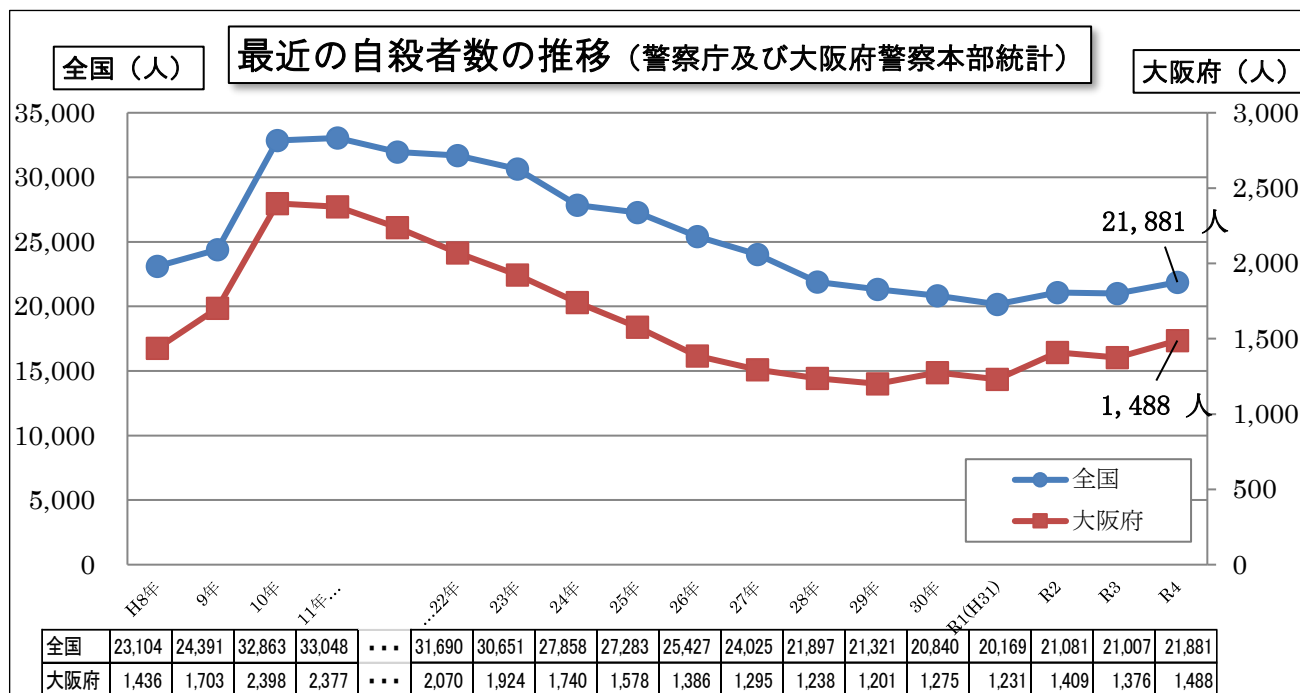




# 『 高齢者を対象にした自殺対策 』

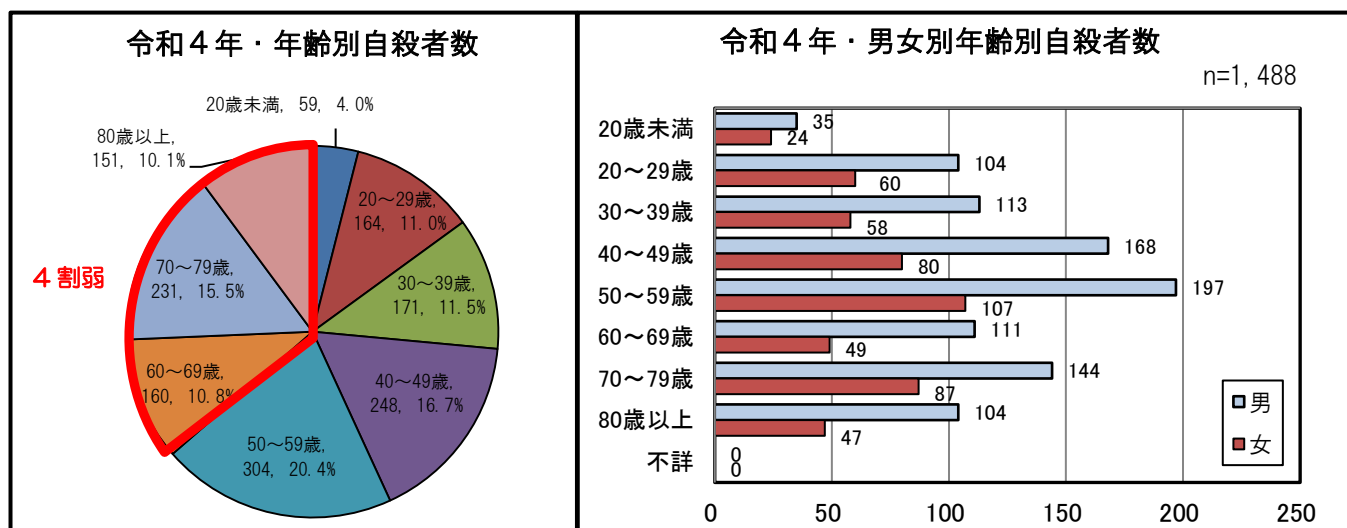
## 1. 大阪府の自殺の現状



令和4年の自殺者数は、全国、大阪府ともに増加し、全国では前年より874人増の21,881人となりました。これは、新型コロナウイルス感染症の拡大といった要素があり、自殺者数が11年ぶりに増加した令和2年より多い状況です。大阪府では、1年間に1,488人、1日あたりでは4人以上の方が亡くなられており、依然としてたくさんの方の命が失われる深刻な状況が続いています。

男女別では、男性976人(65.6%)、女性512人(34.4%)で、男性は女性の2.1倍と多い状況です。

年齢別では、60歳以上が全体の4割弱を占めており、原因動機別では、「健康問題」「経済・生活問題」「家庭問題」の3項目が男女ともに上位を占めています。



## 2. 高齢者の自殺の特徴(大阪府監察医事務所のデータ(2020)分析から)

- ・「身体疾患の悩み」を持つ事例が約4割あり、そのうち、「がんや難病」「原因の特定されない身体の不調(痛み)」の事例は4割弱を占めていました。
- ・医療・福祉サービスを利用していた事例は3割あり、支援者等周囲の人が自殺のほめかしを聞いている事例もありました。
- ・本人にとって生きる支えとなっていたと考えられる人や物の喪失体験のある方が1割あり、遺書や葬儀代などを準備している事例もありました。

自殺の多くは、病気や障がい、慢性的な疼痛などの健康問題、倒産や失業、多重債務などの経済・生活問題、介護・看病疲れやいじめなど、個人の自由な意思や選択の結果ではなく、さまざまな要因が複雑に絡み合い、「心理的に追い込まれた末の死」と言われています。

自殺に追い込まれる危機は、「誰にでも起こりうる危機」で、その多くは適切な支援やサポートによって防ぐことが可能です。

## 3. 高齢者に対する自殺対策

自殺対策において、悩みのある人に気づき、声をかけ、話を聴いて、危険度をはかり、適切な機関や支援者につなぎ、見守る人のことをゲートキーパーと言います。

自殺を考えている人に出会う可能性は、誰にでもあります。高齢者への普段の関わりの中で「あれ?いつもと様子が違うな…」と思った時にお役立てください。



### 高齢者を支援するみなさまへ

介護予防サービスや、日常生活支援など、日頃から高齢者と関わりを持つ支援者が、ゲートキーパーとして、高齢者が発する自殺のサインに早く気づき、まずは話を聴いていただくことが大切です。話を聴きながら、死にたいという気持ちや具体的な行動があれば、保健所や市町村自殺対策担当課と連携して、高齢者に寄り添いながら、必要な場合は精神科医等の専門家につなぎ、見守りを続けていただきますようお願いいたします。

大阪府こころの健康総合センターでは、保健所や市町村自殺対策担当課の職員を対象にゲートキーパー養成研修の講師を養成しています。

各市町村、管轄保健所には、ゲートキーパー養成研修の講師がいます。ぜひ、ゲートキーパー養成研修の受講や、開催をご検討ください。



大阪府こころの健康総合センター 事業推進課

TEL:06-6691-2810 FAX:06-6691-2814

e-mail:[kenkosogo-g22@sbox.pref.osaka.lg.jp](mailto:kenkosogo-g22@sbox.pref.osaka.lg.jp) HP:[こころのオアシス](#)